

京北地域小中一貫教育校に関する説明会摘録

1 日 時 平成29年1月29日（日）10：30～13：00

2 場 所 周山中学校 体育館

3 参加者 49名

4 主 催 学校・教育委員会

5 説明内容

(1) 京北地域小中一貫教育校教育構想素案 資料1

これまでの4小中学校の取組も活かしながら、下記に記載するような取組を通して、京北地域から未来を切り拓く子どもの育成を目指した教育活動を展開する。

また、統合前から、児童生徒の交流等に積極的に取り組み、それを充実・発展させながら、小中一貫教育校の教育活動につなげていくため、今年度から実施している、合同学習の充実やクラス分け授業について、それらの取組の様子を説明。

<特色ある取組（例）>

- ア 小学校と中学校の教員が協働で取り組む9年間の教育活動の中で、1年生から9年生までの縦割り活動によるピア・サポート学習
- イ 体験活動などを通して地域の伝統文化をしっかりと守っていく子どもたちを育む「京北ふるさと未来科（仮称）」の創設
- ウ 3保育所や北桑田高校との連携推進
- エ 京北の豊かな自然や歴史、文化等を活かした食育、環境教育
- オ これからの国際化社会で活躍できる力を育むための英語教育の充実 など

(2) 施設整備（施設整備検討部会での検討状況等）資料2

第1回から第4回の施設整備検討部会での検討内容及びそれを基に取りまとめた施設整備の基本方針について説明。

今年度中に、これまでの意見や本日の説明会での意見等を参考に基本計画を策定する。

(3) 通学安全（通学安全検討部会での検討状況等）資料3

第1回通学安全検討部会での検討内容について説明。バス通学において走行する経路は、現在ふるさとバスが走行している道路を走行することを基本とし、今後、乗車対象地区の検討等を行う。

6 会場からの意見

- 市会で付帯決議が付いたにもかかわらず、今回が初めての説明会。今後、地域住民の意見・要望をどのようにくみ取るのか。定期的に説明会を開催してほしい。

- スクールバスと地域の公共交通の在り方について、同時に議論されていることに驚いている。また、基本方針に「スクールバスを確保」との方針が示されていない。親が送迎している現状も踏まえ、登下校に必要なバスをしっかりと確保していただきたい。
- 教員時代、大雪警報やその解除に伴い登校を判断する際には、小学生、特に低学年は自分で通学路の安全が判断できないので、教員が通学路の安全点検を行っていた。統合し校区が広がれば、果たして各学年の教員だけで安全点検ができるのか。京北では大雪のことを念頭に通学安全を考えるべき。
- 新校舎の看板（自治振興会がウッディー京北前交差点に設置）の絵を見たが、高雄の焼却場みたい。焼却場はやめてほしい。
- 学校統合の議論で、京北町時代の統合議論を思い出した。当時は、行政からの説明は自信にあふれていたが、今は、説明が暗い。「良い学校を創りたい」という思いが、伝わってこない。地域が学校の草刈りや水路の土砂撤去・滑り台を設置するなど熱い思いで学校を支えている。小中一貫教育校創設に関する話が地域に全く下りていない。説明会を塔（山国地区）でやっていただきたい。
- 京北出身や地域在住の教員を一定の割合で採用する制度としてほしい。「まち」からの先生も一生懸命やっけていいていて、地元の伝統等を理解していない。地域の知恵の伝承のため、また、先日の大雪では京北への道が寸断されたことを考えると、通学路の安全確認等も、地元出身でないと分からない。地域に先生が住んでいると心強い。
- 夏休みのプールに行くためには、(今でも夏休みはスクールバスがないため,) 黒田からでは親が送迎している。こうした住んでいる場所による制限をなくしてほしい。僻地に視点を置いて検討を進めて頂きたい。
- これまでの検討協議会や施設整備検討部会での議論の中身が全く見えない。教育構想を聞いていても、障がいのある子どもに配慮した教育が検討されているようには感じない。同様に、新校舎はユニバーサルデザインの視点で検討されているのか。高台に、長い階段を設けて新校舎を建設すること自体が障がいのある子に対する配慮がなされていない。大きなアプローチ階段は壁にしか見えない。エレベーターは一番上まで行けるのか。もっと住民の意見を聞く場を設けてほしい。
- 先日京都新聞出版からの「学びやタイムスリップ」という本にも感銘を受けた。ぜひとも小中一貫教育校の実現をお願いしたい。
- 検討協議会の会議をただ傍聴するだけではなく、意見が言えるように公聴会という形で検討していただきたい。
- 昨年度開催された小中一貫教育校の教育構想素案に関する説明会では、統合せずに3小学校のままで実践可能であることや、英語教育への疑問、教員が確実に減る中で素案に示されたバラ色の教育構想が実現可能なのか、学校と地域の連携は今まで通り保てるのかといった指摘があった。今日の説明を聞いて、その当時の説明から改善された内容を感じない。単に話を聞いておきますという形だけでなく、

しっかりと修正されて良いモノにならないと意味がない。

- 昨年3月に、京都市のこれまでの学校統合の議論では初めて、市会で予算執行に関する付帯決議が決議された。付帯決議の意味をもう一度考えて頂きたい。今日の説明会も、間もなく始まる29年度の予算審議で、「こういうことをしてきました」と説明し、来年度予算を通すために開催したのではないか。
- 地域に支えられ、少人数で丁寧な指導が行われている山国が素晴らしいと思い、引っ越してきた。大阪市と同じ面積の京北で、なぜ学校を1校にするのか全く理解できない。新校舎や通学の話以前の問題として、学校が1つになってしまうことにまだ納得できていない。(1/21新聞折込、退職教職員有志60人の名前が記載されたビラ「わたしたち退職教職員は住民不在の小中一貫校構想を見過ごすわけにはいきません」を手に)退職教職員の方々が自分の名前を出して、このまま進めてよいのかと言っている。私はこの熱意に賭けたい。
- 学校統廃合の構想を完全に否定しているわけではない。ただ、なぜ今、素晴らしい二小を潰してわざわざ遠い学校に行かせるのか理解ができない。
- 教育委員会はきれいなことばかり言っているが、先日の大雪の間、親が学校まで送迎を行っていた。なぜ教育委員会は、その時にバスを出さずと言ってくれなかったのか。今すぐできることをやっていないのに、先のきれいな事を言われても納得できない。
- 統合することに対して納得できないという意見が出たことを議会でもしっかり報告して頂きたい。
- 先ほどの発言は、嫌味で言った。雪道の通学は子どもたちにとってどれだけ危険だったのか分かっているのか。なぜ今回の大雪で休校にしなかったのか。7校のときにできた安全点検が3校になってできなくなり、さらにそれを1校にすると言う。子どもの命を何やと思っているのか。警報が解除されたら、教員は安全確認もせず、登校して来いと言う。自分の子どもは大切なので親や地域は協力する。それに胡坐をかいている学校や教育委員会はいかがなものか。
- 説明会に参加できない保護者から手紙を預かっている。また、一小の保護者が校長に手紙を渡しに行ったところ、校長ではなく教育委員会に渡すようにと伺っている。
- 小さい子がいるのでこの説明会に来られない保護者が多数いる。保育の場所もない。来ても意見が言えない方が大多数である。議論する場がないのも現状。説明会の動画を欠席した保護者とシェアし、出てきた意見を伝えたいし建設的な会話がしたい。その窓口を中心的な方をお願いしたい。出てきた質問とそれに対する回答を公の場でお願いしたい。
- 「検討協議会だより」は、その次の検討協議会開催日の1週間前までに配布するべき。この説明会の内容も住民に広報していただきたい。パソコンができない人への配慮もお願いしたい。
- 施設整備の基本方針に「木のぬくもり」とあるが、二小の木のぬくもりのある校舎を参考にしたい。

- 「地域に開かれた」とあるが、二小のように門扉を必要としない、誰でも入ってくるができる学校を考えて頂きたい。
- 保育所保護者が直接議論に関わる機会がさほどないまま話が進んでいる。当事者となる小さい子を持つ保護者が議論する場を設けてほしい。
- 地域の組織の代表者が関わり検討協議会で議論いただいているが、その代表者は事前に組織内で話し合った上で会議に臨んでいるわけではない。今回のような説明会の機会をもっと持っていただきたい。学校と地域の思いをぶつけ合い、より良い京北の教育を考えていきたい。住民の意見をくみ上げて頂く場を保障していただきたい。検討協議会の傍聴も認めて頂きたい。また、京北には立派な校舎があるのに、新校舎を建設するのは税金の無駄使いである。

7 教育委員会・学校からの回答

- **【住民説明会の開催について】** 施設整備方針の取りまとめ等に時間を要し、説明会開催がこの時期になったが、今後も検討協議会の進捗状況を踏まえて説明会を開催する予定である。
付帯決議を重く受け止め、業務の執行にあたっているところであるが、この説明会は、29年度予算を審議する2月市会のための足跡残しで開催しているものではない。そうした姿勢で臨むことは、今日集まって頂いている方々にも、これまで検討協議会や専門部会において、夜遅くまで議論して頂いた方々にも失礼だと考えている。本日は、これまでの議論でまとめて頂いた内容をできるだけ早く皆様にお伝えし、この場でもご意見をいただき、より良いものにしていくために開催させていただいたものである
- **【検討協議会だよりの配布や会議のお知らせ、傍聴等について】** 検討協議会だよりの配布は京北自治振興会に協力いただき、毎月1回、各地区への定例配布に頼らざるを得ない状況である。学校統合推進室のホームページにできるだけ早く摘録等を掲載するとともに、次回会議の予定等も案内してまいりたい。ホームページをご覧になれない方への対応については、検討する。
また、これまでの検討協議会及び専門部会の摘録、資料を学校統合推進室のホームページで公開している。また、会議の傍聴について、次回の検討協議会で方向性を決めて頂くことを考えている。
ご意見があれば検討協議会の事務局である学校統合推進室や学校に伝えていただきたい。それに対する回答も含め、内容の公開や共有方法等については内部での検討が必要である。教育委員会に意見を伝えて頂ければ、内容に応じて担当課がしっかり対応させていただく。
- **【通学安全について】** 子どもの通学をしっかりと保証することを第一に考えているが、地域における公共交通の在り方も大きな課題であると認識。検討部会でも、路線バスの充実とスクールバスとしての確保の両方意見を頂いている。路線バスもスクールバスもふるさと公社への委託であり、乗務員の確保等も含め、一体的に検討する必要があると考えており、今後、学校ごとに説明会を開催するなど、保護者の意見をしっかりと聞きしながら丁寧に検討を進めていきたい。また、各地域・学校の事情を踏まえ、現在の保護者の負担が軽減できるように検討していきたい。
- **【教員の採用、教育構想素案等について】** 京北出身の教員を一定の割合を決めて採用することは、制度

上不可能である。

一方で、地域の伝統や文化等を子どもたちが学ぶ取組については、地元の達人の方の協力も頂きながら、教員とも連携して、地域ぐるみの教育活動を実践して取り組んでいきたい。

また、各学校では、少人数のため子どもたちの意見が刺激し合えないなか、今年度、合同学習の取組の充実と、クラス替えを通じた授業を実施しており、前回の教育構想素案から一歩進んだ取組を行っている。今後も更に教育構想素案を充実させていきたい。

- 【施設整備について】バリアフリーの校舎とし、ユニバーサルデザインの観点で施設整備を行う予定である。また、バスロータリーからエレベーターを使って教室まで行けるように計画している。木の活用についても、京北には素晴らしい校舎があるので、参考にさせていただく。また、ワークショップでは、セキュリティ強化、不審者対策の意見が出ている。

- 【大雪への対応やこれからの教育の進展等について】現在、4小中において、警報に伴う休校の取扱いは徹底されており、混乱はない。学校は、倒木や道路の積雪状況なども確認している。私自身も見回りを行った。京北に赴任して7年目になるが、今回のようなケースは初めてで、地域の方からもそのように聞いている。そうした想定外の大雪のなかであったが、保護者の皆さんは非常に協力的であり、学校に負担を求めるようなことはなかった。また、先ほど京北出身の教員でないと、という意見もあったが、今「まち」から来ている教員も、熱心に頑張っている。この雪でも教員は、道が寸断されても園部回りで時間通り出勤している。一方で、平成30年度から英語科が始まり、道徳は特別な教科になるなど、ここにお集まりの皆さんが経験したことがない教育がこれから始まる。退職教員の方々の地域に学校が必要という考えもあるが、現役の教員も、これから誰も経験していない教育の中で、子どもたちのために何が一番良いかを考え、子どもたちの将来を見据え、コミュニケーション能力を高めていくことが重要であることから、統合し小中一貫教育校を創設することを我々からも提案させて頂いたものである。これまでの京北の少人数教育を否定しているわけではない。「まち」から通勤している教員は京北を大事にしており、地域・保護者にも協力いただいている。この関係を大事にしていきたい。